

1 学校として目指す授業

考え、豊かに表現する力を育てる授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析

- ・国語科は、全国や都の平均を上回り、学力は概ね定着していると言える。取材メモを基にしたり、物語を読んで心に残ったりしたことまとめて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが苦手であると言える。
- ・算数科も、全国や都の平均を上回り、学力は概ね定着していると言える。計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述したり、図形の1つの特徴に着目し関連する特徴について記述したりすることが苦手であると言える。

生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析

- ・8割近くの児童が、ICTを活用した学習の良さや成果について、感じる事ができている。一方、学習の時間以外に活用する時間が30分を下回る児童が6割以上である。また、タブレットを使用して、友達と考えを共有したり、協力したりできていないと感じる児童も一定数いる。
- ・先生によいところを見てもらえていないと感じている児童が、都の数値よりも1.5倍高い。一単位時間、単元を通して、できたことや頑張ったことに気づき、称賛し、価値付けを継続していく。

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

外部評価アンケート、児童3年～6年「国分寺についてもっと知りたいか」の質問に対し、21%の児童が否定的な回答を示した。国分寺学に対する、児童の意識を高めていく必要がある。保護者「子どもたちは、タブレット等を使って情報を集めたり、発信したりする力が身に付いていると思うか」の質問に対し、41%の保護者が否定的な回答を示した。各教科のICT活用方法について、授業改善に活かせるよう改めて活用方法を整理していく。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- 国語科では、感じたことや読み取ったことを基に、自分の考えを伝え合うことに課題が見られる。そのため、自分の考えを伝え合う活動を意図的に設ける。その際、他者との意見や考え方の違いに気付けるようにしていく。まずはノートに自分の意見をまとめ、その後伝え合う活動に入るなど、記述と伝え合う活動を一体化して取り組む。
- 算数科では、計算の仕方や問題の解決方法について、式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。そのため解決方法を記述する活動を、毎時間設定する。
- 各教科に加え、特に特別活動における話し合い活動において、意見交流を通して、様々な異なる意見から合意形成しながらまとめていく経験を積むようにする。
- 郷土についてより興味をもつことができるよう「国分寺学」の意図や良さについて、児童にしっかりと説明をする。また、作成された国分寺学のねらいを明確にし、児童と共有しながら学習を進める。
- ICT機器を用いて学習する機会が少ないという課題が見られる。ICT活用では、授業改善につながる取組と家庭での活用をいかにからめられるか、タブレットルールとも関連させながら整理していく必要がある。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ◯...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

- 【考え、豊かに表現する力を育てる授業】**
- ①「情報を活用した主体的・協働的な学びの実現」ICTを適切に活用した授業改善
 - ②「基礎学力の確実な定着」ベーシックドリル算数診断シートの分析を基にした個別最適な学びの実現、また、体力の向上
 - ③「国分寺学の推進」 校内研究を生かした国分寺学年間計画の見直し

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	自分の考えを書く活動や、ペアで考えを伝え合う活動を意図的に設定する。				文章題と具体物の操作を意識させて、思考力の基礎となる活動に取り組ませる。				気づきや疑問を大切にしながら、表現したり話し合ったりする活動を意図的に設定する。		身体表現や聴き合う活動を多く設定し、友達の表現のよさや面白さに気付く力を育てる。		思いついたことを試す時間を確保し、自分のイメージしたことを表現する活動を通して、発想する力を育む。				活動をよりよくするための工夫を考へて話し合ったり発表したりする活動を、1単位時間の中で設定し、よさを見付け合う。				多面的・多面的な考えを認め合うことを大切に、全員が自分の考えを安心して伝え合うことができるようにする。	
中学年	書く活動や話し合う活動の機会を確保し、モデルを示して活動を積み上げていく。話し合いでは、少人数での交流も組み込み、安心して表現できるように配慮する。		資料を読み取り情報を整理する時間を設ける。図書資料やタブレットを活用して、得た情報を精査し、新聞やポスター、プレゼンテーションソフト等にまとめたり、発表したりする機会を意図的に取り入れる。		数量関係や課題を正しく把握するために語句に線を引きながら問題を读んだり、図や表、式を用いて自分の考えを書いたりする活動を十分に確保する。また、ICTの活用や協働の場面を取り入れることで、多面的に考えることができるようにする。		問題を明確にしてから予想させ、実験結果について全体で共有し、分かったことを自分の言葉で表現する活動を取り入れる。				集団で話し合ったり、聴いて感じたことを伝え合ったりする活動を、意図的に設定する。必要に応じてキーワードを提示して、話し合いが充実するようにする。様々な形態の発表活動を行い、友達の音楽のよさや面白さを味わえるようにする。		思いついたことを試す活動や試して感じたことを共有する時間を十分に確保することで、発想や構想する力を育む。				ルールを簡易化することで、誰もが安心して取り組むことができるようにする。運動のポイントを捉えやすくし、考えたことや分かったことを友達と共有することで、思考力・表現力を高める。				発問の精選、話し合いや書く活動の工夫により、互いの考えを伝え合い、多面的・多角的に考えられるようにする。	
高学年	互いの立場や意図を明確にしなが自信をもって自分の考えを書いたり、話し合ったりする場面を多く設定する。		視聴覚教材(図書資料やタブレット)を有効に活用し、自ら課題や追究したいことをもたせる授業展開の工夫をする。調べ学習では、予想する、調べる、考えをまとめるなどの学習過程を通して私たちの生活との関連や比較をさせ、学びを深める活動を意図的に設定する。		数量関係や課題を明確にし、表や式、グラフを用いて自分の考えをまとめ伝え合う活動を十分に確保する。また、ICTの活用も取り入れ、自立的、協働的に取り組むながら多面的に考えることができるようにする。		生活経験や既習事項を根拠に、実験結果を予想する活動を設ける。また、実験結果をもとにして、仮説の妥当性を説明する活動を充実させる。				ICTの活用の仕方を工夫し、気付いたことと感じ取ったことを交流する場面を多く設定することで、音楽の構造について共有し、音楽のよさを深める。		ICTを活用した活動や協働的な活動、感じたことや考えたことを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れることで発想を広げたり学びを深めたりし、自ら発信する力を育てる。		生活経験を基にどうすれば生活をよりよくしているのかを考え、調べることで思考力を高めるとともに、友達との意見の交流を通して、さらに思考を深める。		タブレットや資料と照らし合わせて動きを確認したり、友達と見合ったりする中で客観的に観察し、よさや改善点を見付ける。その内容を伝え合うことで思考力や表現力を深める。		コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を適切に設定することで、幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを理解させる。また、コミュニケーション力を育むとともに、異文化についての興味・関心を広げる。		互いの考えを伝え合うことで答えは一つではなく、様々な考えや価値があることに気付かせる。自分の考えが広がるよさに気付かせる。多面的・多角的な視点をもたせ、自己の生き方について考えを深める。	